

講師資格認定オーディション 筆記試験対策

—ピアノ科/オルガン科 各R5～R2—

2012年春に行なわれた講師資格認定オーディションの筆記課題について、試験結果を分析し、正答率の低かった問題を中心に解説をしていきます。この解説を参考にして出題傾向のポイントを押さえ、次回の受験の準備にお役立てください。

■ ■ ■ ■ ■ ピアノ科【R5】 ■ ■ ■ ■ ■

R5では、音楽の一般知識を問う問題、楽典の基礎的な問題に加えて、指導法に関する問題やローランド・ミュージック・スクールの音楽教育システムに関する問題などが出題されます。この春に実施されたオーディションでは、楽語の意味を答える問題や楽曲の形式を答える問題など、基礎的な問題の正答率の低さが目立ちました。日頃よく目にする楽語であっても、改めて正確な意味を調べるなどして、楽典の基礎をしっかりと見直しておきましょう。

◎次の楽語の意味を①～④より選び、番号で答えなさい。

設問 15. 「comodo」 ①動きをつけて ②気楽に ③おだやかに ④悲しげに 正解：②気楽に

設問 16. 「rallentando」 ①遅くしながらだんだん強く ②悲しげに ③上品に ④次第に遅く 正解：④次第に遅く

設問 17. 「subito」 ①すぐに ②常に ③おおよそ ④より一層 正解：①すぐに

設問 15 の『comodo』は「気楽に」「適宜に」といった意味ですが、似た発音の『con moto (動きを付けて)』と混同してしまった方もいたようです。意味はまったく異なりますので注意しましょう。

設問 16 の『rallentando』は「次第に遅く」という意味で、『ritardando (rit.)』とほぼ同じです。ちなみに①の「遅くしながらだんだん強く」を意味する楽語は、『allargando』で、こちらも一緒に覚えておくと良いでしょう。

設問 17 の『subito』は「すぐに」「突然に」という意味で、例えば『subito *p* (急に弱くする)』などのように使用され、『sub. *p*』と省略形で用いる場合もあります。なお、②「常に」を意味するものには『sempre』、④「より一層」には『più』という用語があります。

楽語を覚える際には、似た意味を持つ用語や関連する用語と一緒に覚えるように習慣付けると良いでしょう。

◎次の問いに答えなさい。

Andante

設問 20. この楽譜における楽曲形式を、①～④より選び、番号で答えなさい。

①二部形式 ②三部形式 ③ロンド形式 ④ソナタ形式 正解：①二部形式

「二部形式」とは、曲の構成がA-Bという2つの部分から成る形式を指します。一方、「三部形式」はA-B-Aという3つの部分から成る形式です。この楽譜では、9小節目(2カッコがある小節)まではAの部分、それ以降はBの部分と考えることができ、二部形式が当てはまります。二部形式や三部形式は楽曲の形式における基本となりますので、必ず理解しておきましょう。

ピアノ科【R4】

R4では、R5と同様にすべての問題が選択肢による解答形式ですが、R5と比べ、より広範囲で専門的な音楽的知識が問われます。さまざまな楽器の音色の聴き分けができるようにしておくことや、楽語の知識をより深めておくことが大切です。

◎これから、音楽を5曲流します。主旋律を演奏している楽器をそれぞれ①～③より1つずつ選び、番号で答えなさい。

設問1. ①クラリネット ②フルート ③オーボエ

正解：③オーボエ

正解のオーボエは「ダブルリード楽器」に分類される木管楽器の1つで、2つ重ねたリードの中に空気を吹き込んで振動を起し、管で共鳴させて音を出す仕組みで、その音色はクラリネットともフルートとも異なる特徴を示します。選択肢の楽器（クラリネット、フルート、オーボエ）はどれもオーケストラの中では常連の楽器ですので、普段から演奏会のテレビ放送をチェックするなどしておくとい良いでしょう。

◎次の楽語の意味を①～④より選び、番号で答えなさい。

設問17. 「calando」

①遅くしながら次第に強く ②遅くしながら次第に弱く ③歌うように ④穏やかに

正解：②遅くしながら次第に弱く

『calando』は、遅くしながら次第に弱く（穏やかに）といった意味です。類似した意味を持つ楽語に『smorzando』（次第に遅く、消えるように）、『morendo』（次第に遅く、命絶えるように）がありますので一緒に覚えておきましょう。また、これらの楽語と関連付けて、「強さ」と「速度」の変化を同時に示す楽語をまとめて復習しておきましょう。『allargando』（次第に遅く、そして強く）、『stringendo』（次第に速く、そして強く）などです。

◎次の文章について、正しいものには○を、そうでないものには×で答えなさい。

設問44. ピアノ科ベーシックコース主教本「ピアノ・スケッチ」は、演奏オーディションの15級から9級までに対応している。

正解：×

「ピアノ・スケッチ」は、演奏オーディション15級から6級までの範囲に対応しており、ピアノ・スケッチ①が15級から12級まで、②が11級から9級まで、③が8級から6級までとなっています。各コースの教本に関する知識はローランド・ミュージック・スクールの講師として活動していくうえで必要ですので、しっかりと押さえておきましょう。

ピアノ科【R3】

R3では、聴音問題、筆記課題ともに記述形式の問題が加わり、より実践的な内容が出題されます。この春のオーディションでは、聴音問題のうち、音楽を聴いてそのリズムの種類を答える選択問題において特に正答率が低かったようです。ポピュラー音楽で使われるさまざまなリズムの種類に日頃から慣れ親しみ、知識を深めておきましょう。

◎これから、音楽を5曲流します。当てはまるリズムの名称をそれぞれ①～④より1つずつ選び、番号で答えなさい。

設問3. ①ボサ・ノヴァ ②ルンバ ③サンバ ④マンボ

正解：③サンバ

サンバは2拍子が基本のリズムで、スルド、パンデイロ、カバサなどの複数の打楽器を組み合わせ、付点の付いた低音のリズム、裏拍に強い重心が置かれることなどが特徴として挙げられます。会場で流れた音楽が比較的スローなテンポのサンバであったため、①ボサ・ノヴァと間違えた方が多かったようですが、ボサ・ノヴァとサンバは単なるテンポの違いではなく、両者はリズムとしては共通点が多いながらも、ボサ・ノヴァはドラムセットなどを用いて少人数で演奏できるよう、ずっと簡略化されているところに特徴があります。ラテン音楽のリズムに関する問題は毎年出題されますので、代表的なラテンのリズムについてそれぞれの特徴を明確に区別できるようにしておきましょう。

スクール会員専用サイト 講師資格認定オーディションの過去問解説・例題集もご活用ください！

ローランド・ミュージック・スクールの会員専用ウェブサイトにて、講師資格認定オーディションの受験準備に役立つ過去問の解説や例題集を公開しています。試験の傾向を把握して充分に対策し、受験にそなえましょう。

ローランド・ミュージック・スクール会員専用ウェブサイト
ログインしてご覧ください。

<http://www.roland.co.jp/school/member/>

ピアノ科・オルガン科 各R5～R2 筆記試験対策

毎年、RET'Sプレス10月号に掲載している『筆記試験対策』のバックナンバーを、PDFファイルにてスクール会員専用サイトでもご覧いただけます。実際の講師資格認定オーディションの筆記試験結果を分析し、正答率の低かった問題を中心に解説。2007年～2011年の各年春に実施した試験結果の分析・解説を公開しています。また、2012年10月より聴音課題の例題（音声ファイル付き）も新たに公開。実際の試験を想定した対策が可能です。ぜひご活用ください。

ポピュラー・ジャズピアノ科 Basic-I～Advanced-II 試験対策例題集

ポピュラー・ジャズピアノ科の講師資格認定オーディションの受験対策用として、ライセンス別の各種例題集をPDFファイルにてスクール会員専用サイトに公開しています。問題の解説も掲載していますので、試験対策にお役立てください。

<例題集の内容> ・実技試験 初見1・2 ※Advanced-IIは初見1のみ
・筆記試験 聴音（音声ファイルあり・2012年10月公開） ※Basic-II、Advanced-Iのみ
・筆記試験 理論（資格ランクごとに3種類ずつの例題集）

◎次の弦楽四重奏曲の楽譜を見て、問いに答えなさい。

Adagio cantabile

◎この曲はイ長調です。曲中の□ (10) に囲まれた部分に当てはまる和音記号をそれぞれ①～④より選び、番号で答えなさい。

設問 10. ① IV₇ ② II₁[♯] ③ V₇¹ ④ V₇^{♯1}

正解：④ V₇^{♯1}

①と解答された方が多かったようですが、もし①だとすれば一番低い音はD#音ではなくD(ナチュラル)音でなければなりません。まず、このD#音に注目してみましょう。D#音はこの曲の主調であるイ長調の音階に含まれないため、借用和音である可能性が考えられます。次にVの和音に向けて進行していることから、属調に対する属九の和音、すなわちダブルドミナント(ドッペルドミナント)であると考えられるでしょう。また、根音であるB音が含まれない根音省略形であることと、最低音がD#音が和音構成の第三音の第一転回形であることから、④が正解となります。

◎下の文は、「シチリアーノ(シシリエンヌ)」についての説明文です。文中の□ (22) ～ (24) に当てはまる言葉を埋め、文を完成させなさい。(設問 22～24)

通常□ (22) 拍子の、付点のリズムが特徴的な舞曲で、テンポ(速度)は舞曲の中では比較的□ (23) い。19世紀末に□ (24) が作曲した「ベレアスとメリザンド」の中の「シシリエンヌ ト短調」は、特に著名である。

正解：設問 22… $\frac{9}{8}$ 設問 23…遅 設問 24…フォーレ

設問 22、設問 23 と比べて、設問 24 の正答率がやや低い傾向にありました。シチリア舞曲(イタリア語で「シチリアーノ」または「シチリアーナ」、フランス語で「シシリエンヌ」)の名を冠する曲のうち、フォーレの「シシリエンヌ」は特に親しまれている作品の1つで、おそらく誰もが一度は耳にしたことがあるでしょう。このほか、レスピーギによる「リュートのための古風な舞曲とアリア」の中の「シチリアーナ」もよく知られています。R3では、音楽の一般知識や音楽史全般に関する問題がこのような記述問題としても出題されます。有名な作曲家やその代表的な作品について、今一度見直しておきましょう。

◆◆◆◆ オルガン科【R5】 ◆◆◆◆

R5では、音楽の一般知識を問う問題や楽典の基礎的な問題に加え、ミュージック・アトリエの機能や、基本的なコードネームに関する問題が選択問題として出題されます。この春に実施されたオーディションでは、コードネームに関する問題やミュージック・アトリエの機能に関する問題で特に正答率が低かったようです。ミュージック・アトリエの機能については、今一度基本をしっかりと押さえておくことはもちろんですが、日頃からさまざまな機能を使って演奏することを楽しむように心がければ、自然と身に付いていくことでしょう。

◎次の楽語の意味を①～④より選び、番号で答えなさい。

設問 17. 「sempre」 ①ただちに ②同様に ③常に ④今までよりいっそう

正解：③常に

楽語の意味を答える問題です。sempre は、「常に」を意味する副詞で、例えば sempre espressivo (常に表情豊かに) のように、形容詞にかかる場合は通常はその前に置かれます。このような使い方をする楽語には『subito (ただちに)』、『più (いっそう)』、『molto (きわめて)』などがあるので、関連して一緒に覚えておくとうれいでしょう。

◎次の文章が正しければ○、間違っていれば×で答えなさい。

設問 23. ミュージック・アトリエのペダル鍵盤は、和音も演奏することができる。

正解：○

ミュージック・アトリエでは、ペダル鍵盤による和音演奏が可能であり、ミュージック・アトリエを演奏したことのある人であれば普通は誰でもわかる問題ですが、今回は正答率があまり高くありませんでした。冒頭でも触れましたが、オルガン科の講師として活動していくためにも、日頃からミュージック・アトリエに触れ、さまざまな機能を使いながら演奏経験を積んでおくことは非常に大切です。

◎次の和音に当てはまるコードネームをそれぞれ①～⑧より選び、番号で答えなさい。

設問 39.  ① Bmaj7 ② B6 ③ B7sus4 ④ Bmmaj7 ⑤ Bm7 ⑥ Bm7 (b5) ⑦ B7 ⑧ Bdim7

正解：⑦ B7

楽譜に書かれた和音に当てはまるコードネームを答える問題です。正解の⑦ B7 (セブンス・コード) は、Bメジャートライアド (長三和音) に、ルートである B 音から短7度上 (セブンス) の音を加えたコードです。誤って④ Bmmaj7 と答えた方がやや目立ちました。Bmmaj7 (基本形) は右のようになります。マイナー・メジャー・セブンス・コードはどちらかと言えば頻繁に使用されるコードではありませんが、覚えるコツは、「マイナー」と「メジャー・セブンス」に分けて考えることです。マイナートライアド (短三和音) に、メジャー・セブンス (ルート音から長7度上の音) を加えたコードが、マイナー・メジャー・セブンス・コードになります。



◆◆◆◆ オルガン科【R4】 ◆◆◆◆

聴音課題において、R5で音楽を聴いてそのジャンルや様式を答える問題は、R4では主旋律を演奏している楽器名を答える問題になります。

◎これから、音楽を5曲流します。主旋律を演奏している楽器をそれぞれ①～③より1つずつ選び、番号で答えなさい。

設問 1. ①コントラバス ②チェロ ③ヴィオラ

正解：②チェロ

会場で流れた音楽は、ドヴォルザークの「チェロ協奏曲 短調」より第3楽章の一部でしたが、この部分はチェロとしては比較的音域が高く、ヴィオラに近い音域であったため、誤って③ヴィオラと答えた人が多かったようです。

チェロの弦は4本あり、下から順にC、G、D、A音に調弦されますが、最も高い弦 (A線) で奏でられる高音域は甘く美しい音色が特徴であり、音域的にはヴィオラに近いですがその音色はかなり異なります。選択肢には同属楽器も含まれますが、音域だけで判断せずに、音色の微妙な違いについてもしっかりと把握しておく必要があるでしょう。ピアノ科 R4 の解説でも触れましたが、普段から演奏会のテレビ放送をチェックするなどして、オーケストラのさまざまな楽器の音色の特徴を知るように心がけておくとうれいでしょう。

◎次の文章の に当てはまる言葉を①～④より選び、番号で答えなさい。

設問 24. 基音である 8' (フィート) に対して、 は 1 オクターヴ上の音が出る。

① 2' ② 2+2/3 ③ 4' ④ 16'

正解：③ 4'

オルガンの基礎知識に関する問題です。オルガンの基準となる音の高さ (基音) を生み出すパイプの長さは通常 8' (フィート) とされており、その長さを半分に縮めると 1 オクターヴ高い音になります。したがって、正解は ③ 4' です。ちなみに、パイプの長さを2倍に伸ばすと 1 オクターヴ低い音となり、この場合は ④ 16' が当てはまります。ミュージック・アトリエのハーモニック・バーを使うとその原理を容易に確かめることができますので、実際に試して確認しておきましょう。

◎次の文章について、正しいものには○を、そうでないものには×で答えなさい。

設問 45. ベーシックコース演奏オーディション5～2級のソルフェージュ課題は、視奏と視唱である。

正解：○

ベーシックコース演奏オーディションは、14級以上にソルフェージュ課題が設けられており、14～6級は視唱・視打、5～2級は視奏・視唱という内容になっています。ローランド・ミュージック・スクールの音楽教育システムを把握し、生徒やその保護者からの質問に答えられるようにしておくことは、信頼関係を築くうえでもとても大切です。演奏オーディションやコンクールに関することはもちろん、各コースの教本の種類や内容についてもよく確認しておきましょう。

◆◆◆◆ オルガン科 [R3] ◆◆◆◆

ピアノ科 R3 と同様に、聴音問題、筆記課題ともに記述形式の問題が加わり、より実践的な内容が出題されます。

この春のオーディションでは、音楽を聴いてそのリズムの種類を答える選択問題や、オルガンの歴史に関する問題、コードネームに関する問題において特に正答率が低かったようです。特にオルガンに関する基礎知識（歴史、機能など）は、オルガンの豊かな演奏表現やアレンジの幅を広げるうえでも必要ですので、日頃から知識を蓄えておくように心がけましょう。

◎これから、音楽を5曲流します。曲に最もふさわしいと思われる音楽のジャンルやリズムの名称をそれぞれ①～④より1つずつ選び、番号で答えなさい。

設問 2. ① 2ビート ② 4ビート ③ 8ビート ④ 16ビート

正解：① 2ビート

② 4ビートと解答した人が多かったようですが、正解は① 2ビートです。

会場で流れた音楽のように、いわゆるスウィングのリズムでは4ビート、2ビートの区別がかなり微妙なケースがありますので、慎重に判断する必要があります。4ビートは、典型的には「ウォーキング・ベース」を用いたアレンジに表わされるように、4つの拍が基本的には同じ重みを持ち、横の流れになっていることが特徴であり、一方、「オルタネーティング・ベース」などで表わされる、「表・裏・表・裏」という明確な上下の動きがあるリズムは2ビートと捉えられます。これらの「ノリ」の違いを体感的に捉えられるようにしておくとういでしょう。

◎オルガンについて、次の文章が正しければ○、間違っていれば×で答えなさい。

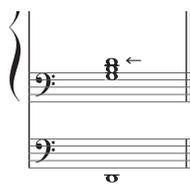
設問 22. シアター・オルガンは、19世紀の初めにアメリカで生まれた。

正解：×

シアター・オルガンは、20世紀初頭に無声映画の伴奏用として生まれ、その名の通りシアター（映画館）に設置されていたオルガンのことです。設問にある、「19世紀の初め」は、まだ映画自体発明されておらず、正解は×となります。オルガンの基本的な知識として、楽器の種類とその使われ方の変遷、歴史についてよく学んでおきましょう。

◎次のコードの中で、←で示された音がコードのどの構成音になっているかを、それぞれ①～④より選び、番号で答えなさい。

設問 28. ① 7th ② Root ③ 3rd ④ 5th



正解：④ 5th

ここでは、←で示された音がベース音と同じD音であるため、② Rootと解答された方が多かったようですが、和音の構成音を見るとGメジャーコード（G音、B音、D音）であることがわかります。よって、D音はRootではなく5th（正解は④）となります。このようにベースの音がRootであるとは限らず、一方で構成音の度数はあくまでもコードの基本形を基準に数えるので、このような問題ではすべての構成音からいったんコードを判別しておくことが必須です。

◆◆◆◆ オルガン科 [R2] ◆◆◆◆

この春のオーディションでは、筆記課題全体の平均点は高めであったものの、聴音課題における「旋律聴音」の点の低さが目立ちました。限られた時間内に書き取ることができるように、日頃から聴音の訓練を積み重ねておく必要があります。例えば、ローランド・ミュージック・スクール会員専用サイトにアップされている聴音例題に取り組んだり（本誌 P.8 参照）、日頃テレビやラジオなどから流れるさまざまな音楽を聴いて、その旋律を楽譜に書き取ってみるなど、譜面を書くことをなるべく習慣付けるように工夫すると良いでしょう。

◎旋律聴取

設問6. 嬰へ短調、4分の4拍子、8小節(6回演奏)

リズムや音価(音の長さ)は正しく書けているものの、音の高さが微妙にずれてしまっている(例えば、C音を誤って2度上のD音で書いている etc.) 解答が多かったようです。オーディション会場では、まずその曲の主和音が鳴ってから旋律の演奏が始まります。音高をつかむのが苦手な人は、まずこの主和音をよく聴いて手がかりとし、音の高さの感覚にずれがないように注意すると良いでしょう。なお、旋律聴音では最初の音は主和音の構成音のいずれかであることが比較的多く、また最後は主音で終わることが多い傾向にあります。困ったときには思い出してみると1つのヒントになるかもしれません。

◎次の楽譜を見て、問いに答えなさい。

Allegro non troppo ma con brio

(10) Bass line of the Clarinet in Bb part, measures 1-4.

(11) Bass line of the Horn in C part, measures 1-4.

(12) Bass line of the Viola part, measures 1-4.

(9)

◎この曲の作曲者は誰ですか。①～④より選び、番号で答えなさい。

設問 13. ①ハイドン ②モーツァルト ③ベートーヴェン ④ブラームス

正解：④ブラームス

この曲はブラームスの作品で、「交響曲第1番」第4楽章の一部です。スコアに含まれるヴァイオリンとチェロによる旋律は、ベートーヴェンの「交響曲第9番」第4楽章（歓喜の歌）の旋律にも少し似ているところがありますが、ブラームスの作品としても大変有名です。R2では、古典派～ロマン派における作曲家のオーケストラ作品のスコアが出題されることが多いため、有名な作品はひと通り押さえておくのが良いでしょう。また、このスコアには、モーツァルトやハイドンなどの古典派の交響曲ではほとんど見られないトロンボーンやチューバが入っていることや、古典派よりもオーケストレーションが重厚であることも、ブラームスの作品であることを示すヒントになります。仮に曲自体を知らなくとも、作風や楽器、作曲家の時代についての知識が役に立つこともありますので、いろいろな角度から見ていくと良いでしょう。

◎オルガンについて、次の文章が正しければ○、間違っていれば×をつけなさい。

設問 23. ミュージック・アトリエでは、ミュージック・アシスタント機能を使うと、ローキーボードで弾いたコードに従ってアップキーボードで弾いた音色に自動的にハーモニーを付けることができる。

正解：×

「ローキーボードで弾いたコードに従ってアップキーボードで弾いた音に自動的にハーモニーを付ける」機能は、「ハーモニー・インテリジェンス」機能です。「ミュージック・アシスタント」機能は、音色や内蔵リズム、レイヤー、スプリットなどの各種設定情報を、演奏したい楽曲のイメージに合わせて呼び出す機能ですので、よく確認しておきましょう。